

令和4年度 八幡浜市総合教育会議議事録

1 日時

令和4年11月30日（水）10:00～11:05

2 場所

八幡浜市役所八幡浜庁舎3階庁議室

3 出席者

(1) 構成員

大城一郎市長、井上靖教育長、菊池誠教育委員、泉俊也教育委員、
山下貴満教育委員、成瀬いづみ教育委員

(2) 構成員以外の出席者

副市長、総務企画部長、総務課長、総務課長補佐、教育指導主幹、学校教育課長、
生涯学習課長、学校教育課長補佐、生涯学習課係長

4 市長あいさつ

本会議は、私と教育委員会での情報交換、連携強化の場として、定期的に開催しているもの。

昨年度の会議では、「全国学力・学習状況調査結果について」等を議題として、学校等の環境整備の充実に向けた様々な意見交換を行った。本日の会議では、次第にあるとおり「教育大綱の改定について」と「小中学校の統廃合について」の2つの議題を設けている。スムーズな進行により有意義な会としたいと思っているので、よろしく願いたい。

5 議事

(1) 教育大綱の改定について

【事務局】説明

- ・前文について ※二重線部分を削除、太字部分を追加

「今、私たちを取り巻く社会は、~~少子高齢化や人間関係の希薄化、情報化による弊害や地球規模の環境問題等、様々な課題を抱えています。~~少子高齢化、人口減少、人工知能の進展等による社会構造の変化や感染症、大規模災害の発生、不安定な国際情勢など、予測困難な時代のなかで、様々な課題に直面しています。」

「~~このような状況にあって、に置かれているからこそ、「教育は人づくり」の観点から、~~という教育の原点に立ち返り、八幡浜の未来を担う子どもたちの大いなる可能性を引き出すとともに、市民一人一人が生きがいをもって暮らせるために、豊かな人生を送るために、次の目標を設定します。」

- ・目標設定について ※新規で追加

「なお、施策の着実な進行管理を図るため、毎年度実施している「教育委員会の点

検・評価」等を活用しながら、PDCAサイクルを構築し、教育施策の展開に反映させていきます。」追加

・基本方針と施策について

- 1 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成 ※変更なし
- 2 未来への飛躍を実現する人材の育成
「交流活動の促進」→「交流活動（事業）の展開」
「学校のICT環境の整備」削除
「一人一台端末の有効活用」、「ICT環境の充実」追加
- 3 安全で安心できる学びの確保
「空調・ブロック塀・トイレ等の整備」削除
「学校施設の長寿命化」追加
「貧困による教育格差への対応」→「教育格差への対応」
- 4 家庭・学校・地域の総合力で取り組む教育の推進
「規範意識の基盤形成」削除
「ブロック別研究体制の見直しと充実」→「ブロック別研究体制の継続」
「公民館活動の充実」削除 ※6へ移行
「子どもの居場所づくり・絆づくり」追加
「部活動の地域移行」追加
- 5 特別支援教育の充実と児童生徒の健全育成
「幼（保）・小・中の円滑な切れ目ない接続」→「幼（保）・小・中の切れ目ない支援」
「教育支援室と関係機関との連携」→「関係各課・関係機関との連携」
「いじめ問題の根絶と不登校への対応」削除
「いじめ問題の根絶」、「不登校児童生徒への支援」追加
- 6 生涯学習の推進とスポーツ・文化の振興
「公民館活動の充実」 ※4からの移行

【菊池委員】

先日、学校視察で一人一台端末の活用の様子を見てきた。中学校の生徒はかなり使いこなしており、先生方の授業もうまく進められていた。これからさらに一歩進んだ授業になっていくと思う。部活動の地域移行については、クリアしなければいけない問題も多いが、検討していく必要がある。また、いじめ問題についても、いじめ問題の根絶に向けて取り組んでいく必要がある。

【市長】

子どもたちのICTへの適応力は早く、慣れてくると思う。

【成瀬委員】

「ヤングケアラー」という言葉は、いつごろからあるのか。

【事務局】

文科省等の公的な機関の定義ではなく、民間のもので、本来は大人が担うべき家事や手伝い等を行って家庭を支えている18歳以下の子どもという意味である。ここ1、2年で急速に広まってきている言葉である。

【成瀬委員】

ヤングケアラーを支援する体制ができればよいと思う。

【教育長】

愛媛県も今年7月に、県下の小学校5～6年生、中高生を対象にアンケートを行った。その結果によると、世話をしている家族がいると答えた小学生は全体の10.4%、中学生は4.0%、高校生（全日制）は2.3%であった。学年が上がれば上がるほど減っている中で、小学生の10.8%は、ここでいう「世話をしている人がいる」という意味について、正しく理解していなかった部分もあるのではないかと思う。市内では、ヤングケアラーに該当する子どもはいないと考えている。

【市長】

共働きの家庭などで、兄弟がいれば当然、家族の面倒を見ることになる。そのことは、ヤングケアラーと呼ばれるものとは異なる。兄弟が家族の面倒を見るというのは、大事なことであるので、このこととヤングケアラーとを混同してもいけない。

【泉委員】

いじめ問題がなかなか無くならない。複式の小さな学校でもいじめが発生している学校もある。これから学校の統廃合で規模が大きくなったりしたら、もしかしたら増えるかもしれない。ますます、先生に注意を払ってもらう必要がある。

【市長】

なかなか難しい問題である。委員が言われたように、小さい学校で起こると、余計に深刻になってくると思う。学校が中心にはなるが、学校・保護者、社会を巻き込んで解決していかなければならない。また、昔に比べていじめの質も変わってきており、ITが進んだことにより、目に見えないところでの事案もあり、守備範囲が広がってきている。

【山下委員】

部活動の地域移行について、指導者の確保など、こういった形で地域移行に結び付けていくのか、市独自の形を作れたらよい。

【教育長】

具体的な構想といったものはないが、教員にアンケートを取ったところ、「部活動に対する負担は以前より増えている」、「教員数が減少していくなかで部活動の数はあまり変わってない」といった意見があった一方で、「教育的価値がある」、「子どもの成長と一緒に見ていける」、「地域移行になったとしても指導者として関わりたい」という意見もあった。

委員が言われたように、各種目・競技で、どの程度の指導者が確保できるかなどの洗い出し、準備委員会などを立ち上げて検討していきたい。

【市長】

地域移行の捉え方として、どのように捉えていったらよいのか。海外では地域クラブがあって、そこに移行するが、日本の考え方としては、学校でクラブをやっているが、地域の人が入ってきて指導する。これも一種の地域移行だと思うが、どのような形の地域移行になるのか。

【教育長】

八幡浜市でいうと、スポーツクラブ的なものはあるが、全ての競技について対応できるわけではない。それぞれの競技に応じて、地域のこれまで指導されてきている協会の方や、あるいは教員のOBなどをリストアップして、例えば、旧八幡浜地区ではある会場を使って土日の練習や試合を行うようになるのではないかと。その場合、施設も十分にあるわけではないので、学校を使用することになるだろう。

例えば、音楽関係の吹奏楽部でいえば、旧保内、旧八幡浜で各1人の指導者を確保し、もちろんやりたいという先生もそこに入って、活動するという形になると思う。その一方で、土日の指導者の人間性と言ったらいけないが、生徒に関わる人として適性があるのかといった、そのあたりの課題が生じないようにやっていかないとはいけない。

【市長】

今でもソフトボール、野球、陸上など、地域の小学校から集まって、地域の人が教えている。多様化していくなかで、マウンテンバイクなどもできればよいと思う。

【菊池委員】

部活動には生徒指導という観点もある。完全地域移行になると、通常の学校生活にかかる部分と異なってきて、生徒指導という観点が欠如してくるので、その点を少し危惧している。

【市長】

指導者を選ぶときに、ある資格を取っておかないと指導者になれないなどの要件があればよいが、そこまでは難しいか。

【教育長】

理想はそのとおりであるが、なかなか難しい。また、謝金の問題もある。

【市長】

「6 生涯学習の推進とスポーツ・文化の振興」で、「生涯にわたって学び続ける環境をつくりまします」という文言になっているが、「わたって」を「わたり」に修正してはどうか。

【市長】

他にご意見がないようであれば、教育大綱の改定については、今ほど議論した内容で原案を修正する形で決定してよろしいか。

【全委員】

異議なし。

(2) 小中学校の統廃合について

【市長】

この協議事項は今後の市議会において報告する内容も含まれているので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定に基づき、会議を非公開とすることを発議する。

これについて、賛成の方は挙手をお願いしたい。

【全委員】

挙手全員

【市長】

賛成全員であるので、議題(2)については会議を非公開とすることを決定する。

(非公開の会議)

【市長】

他の意見がなければ、以上で本日の協議は終了させていただく。

委員のみなさんには、貴重なご意見をいただいた。感謝を申し上げる。

閉会